

年月日	概	要
昭二〇、五、二九 六、三〇	島尻郡新垣着 眞栄平に移駐す。島尻地区戦斗に参加	

才二十四師 国防要給水部隊略歴

年月日	概	要
昭二〇、三、四	沖繩本島周辺の情況逼迫するや山三四七六部隊より沖繩現地召集矢約二〇〇名の戦属を受けニテ中隊より成る患者収容隊を編成す 山才三四七四部隊石部隊に配属せられ才一線陣地に至るや部隊は毎日患者収容隊を出し各大隊本部より首里赤田町まで一旦患者を搬送し応急處置給与等をなし更に首里より東尻平村の陣地壕内或は野戦病院に患者を自動車により運搬後退せしむ。 担架兵の犠牲にも拘らず寡兵よく三千の患者の後退に努む 師団長より賞詞を授与せらる。	
六、一	初、中旬に到り全軍島尻地区への後退に伴ひ部隊は東尻村部落より南方約二里の眞産村に転し尚ほ患者収容の任務を遂行しありたる中 午後十時頃敵軍部隊壕息壕接近により部隊長以下殆んど全員米須海岸或は宇江城(当時の山部隊師団司令部所在地)方面に出動各個に戦斗をなし以後部隊は解散状態に至れり。 約百名(防護兵を含む)の下士官以下を山才三四七四部隊に転属せしめ才一線の戦斗に参加せしむ。	

歩兵才二十二連隊略歴

年月日	概	要
昭一九、七、六	動員下令	
七、一〇	動員完結	
七、一四	滿洲國東安省西東安出發	
七、一八	博田上陸 熊本到着	
八、七	沖繩本島那霸港上陸	
八、二一	中頭郡北谷村良久得到着	
八、三〇	右地区に於ける陣地構築並に防衛	
九、一〇	島尻郡小祿地区較進のため屋良久得出発	
九、二一	島尻郡小祿村到達 同日より同陣地の陣地構築並に防衛	
一〇、三、三三	沖繩一帯に対する敵機爆撃開始	
六、三三	甲号戦備下令 同日を以て戦斗配備完了す	
六、三三	連隊長戦死	
六、三三	師団司令部に於て師団長自ら軍旗を焼却す	

歩兵才二十二連隊部隊略歴

年月日	概	要
昭一九、七、六	動員下令	
七、一三	動員完結	
七、一九	駐屯地滿洲國東安省揚門出發	
七、二三	下関到着	
七、三一	送駐留	
八、一	下関出帆	
八、五	沖繩本島渡具知上陸	
八、八	中頭郡山田附近到着	
一三、一〇	同地区防備隊として警備並陣地構築 出發	
一三、一一	島尻郡糸満附近到着 西地区防備隊として警備並陣地構築	
一三、二一	才一次編成改正	
一三、二二	敵機動部隊に依る空襲 同時甲号戦備下令	
一三、二四	敵船団現出 艦砲射撃開始	
一四、二三	連隊主力原駐地出發 首里戦線に前進	
一五、四	総攻撃に参加	
一五、一七	勝山附近の戦斗	

年月日	概	要
昭二〇、五一〇	総攻襲の功により師団長より賞詞を授与せらる	
昭二〇、五一八	首里附近の戦斗	
昭二〇、五二九	首里出発 島尻地区転進の途途中に二次収容部隊の任務を終了	
昭二〇、五三九	島尻郡大城森村附近に集結	
昭二〇、六二二	国吉附近に陣地占領	
昭二〇、六三三	以後部隊全般敵の重囲に陥る	
昭二〇、六三三	師団司令部との連絡絶つ	
昭二〇、六三六	軍旗を処理し奉る	

歩兵八十九連隊部隊略歴

年月日	概	要
昭二〇、七七八	動員下令 滿洲国東省東安	
昭二〇、七二七	動員完結	
昭二〇、七二七	東安省東安出発	
昭二〇、七三三	下関上陸	
昭二〇、七三三	別府到着	
昭二〇、八一一	門司港出帆	
昭二〇、八一五	沖繩本島那覇港上陸	
昭二〇、八二〇	中頭部平良川到着	
昭二〇、八二九	右心区に於ける陣地構築並に同地附近の警備	
昭二〇、八三〇	島尻南部転進の途平良川出発	
昭二〇、八三〇	島尻郡東尻平村到着 同地構築並に防備	
昭二〇、八三三	東尻平村に在りて陣地構築並に陣地防衛に任ず	
昭二〇、八三三	沖繩本島一帯に対する敵機爆撃開始 甲号戦斗下令 同日より戦斗配備完了す	
昭二〇、八三八	逐次戦斗準備をなしたり	
昭二〇、八三八	正午頃より行動開始せり カニ大隊は当時首里方向より転進中なり	
昭二〇、八三八	当時敵の爆撃迫撃砲の射撃艦砲射撃等射撃の集中甚しく陣地等も逐次損害を受	
昭二〇、八三八	けつつあり	

(100)

年月日	概	要
昭三、五、五	<p>才一才三大隊は要図の位置に前進するや時既に天明にして敵機數百機の爆轟迫襲、艦砲の射撃の集中を受け部隊は混沌たる状態なり 指揮官は大部分死傷せり。</p>	

第二四師制毒隊略歴

(101)

年月日	概	要
昭三、一、一〇	<p>北部六部隊に入隊 北部六部隊出發</p>	
四、	<p>東安因病馬収察所滿洲九二部隊に転属す 動員下令</p>	
一九七、六	<p>一三 一六 満洲九三部隊東安省出發 釜山港——博多下関</p>	
八、	<p>沖繩島金武灣石川村に上陸す 山ヲ三四七七部隊転属</p>	
二〇、一、一五	<p>山ヲ三四七七部隊部長五十嵐大尉 中隊長川崎中尉 小隊長高橋中尉 中井大尉</p>	
六、七	<p>山ヲ三四九〇部隊（元滿洲九三部隊）より山ヲ三四七七部隊に転属す</p>	
一九四、二、〇	<p>山ヲ三四七七部隊より山ヲ三四七八部隊に転属す 頃運王森坂山ヲ三四七六部隊ヲ二大隊に配属發煙の任務を以て運王森高地附近に於て切込戦す</p>	
二〇、五、四	<p>山部隊總攻撃の際同じで發煙の任務を以つて小波津の線に於て戦斗（この戦斗に於て發煙班にて小隊の内約半数は死傷者を出す）</p>	

(102)

年月日	概	要
昭二〇、五、三〇	山内三四七七山内三四九〇兵器修理所の要員を合せ指揮し特編歩兵一箇大隊を編成 大隊長五十嵐大尉指揮の下に前田の線に於て守備並に夜間の山内三四七八部隊の斬込隊員を応援以て夜間斬込戦に参加	
五、末	首里撤退の命を受け前進、時に部隊の半数は死傷す	
六、二	三四七八部隊命令にて東瓜平村小城志多伯方面の敵戦車火砲を裏滅すべき任務を以て夜間斬込戦に参加す	

捜索方二十四連隊略歴

(103)

年月日	概	要
昭一四、一、一五	東安省密山に新設 同地附近の防衛 騎兵方二十四連隊(白露戦役時、永沼挺身騎兵隊なり) 捜索方二十四連隊と略林	
一、二	完達山脈中の匪賊討伐に参加	
一、四	国境警備の過大橋に移動、国境監視及び同地附近の警備	
二、	頃戦車速射砲隊閲覧中隊 動員下令(シ号演習) 出発	
七、	頃動員下令(小号演習)	
七、三	動員完結	
一、六	駐屯地滿州国東安省 東安出発	
二、三	下関到着	
八、一	下関出帆	
八、五	沖繩本島那覇上陸	
八、九	中頭郡座喜村に位置し内地附近の警備に任じ 陣地構築 出発	
一、二〇	島尻郡与座に到着 爾後同地附近の警備並陣地構築	
四、三	同地出発 首里附近に転進	
五、元	首里并ヶ嶽小澤津附近の戦に参加	

年月日	概	要
昭三〇、五、一〇	五中隊陣地新川に移動	
五、二三	連隊本部首里城跡に移動す	
五、二九	連隊主力島尻地区へ撤退す	
	連隊本部、一大隊本部、四大隊本部、新垣に陣地占領	
	一大隊本部砲列陣地新垣附近	
	二大隊本部与座岳砲列陣地与座岳南方台地	
	三大隊本部及観測所眞壁	
	四大隊火砲全部破壊	
六、二〇	連隊内の連絡本日を以て杜絶	
六、二三	連隊本部のみ更に眞壁に移動	
	最後の詳細なる状況不明なるも概ね右陣地に於て最後迄戦斗を続行せるも二大隊は六月十九日火砲全部破壊せられ戦斗力を失う。他の大隊は六月二十二日までに大体戦斗力を失う。	

工兵二十四連隊部隊略歴

年月日	概	要
昭九、四	独立混成旅団工兵中隊として編成せられ滿洲公主嶺に駐屯す（其の間同地附近の警備並北支争奪に参加）	
一三、三	部隊は二ヶ中隊に改編せられ独立混成旅団工兵隊と改称せらる（部隊長 川村大佐）	
一三、七	カ一中隊（中隊長安藤進大佐）を騎兵第四旅団の指揮下に入らしめ北支中支に派遣す	
一三、	ノモンハン事件に依りカ二中隊（当時安岡大尉の指揮下に在り）出勤	
一四、一二	部隊はカ二十四師団編成と共に工兵カ二十四連隊と改称せられノモンハン事件終局するや滿洲国東安省東安に移駐。同地に於て国境警備に服す（部隊長沼崎恭平大佐）	
一五、五	北支派遣中のカ一中隊（北支派遣騎兵カ四旅団編成改正過剩人員）は工兵カ二十四連隊に原隊復帰をなす。	
一六、三	部隊編成改正に伴い申請表備に編成せらる	
一六、七、六	現王大佐補職せらる	
一六、七、六	部隊に動員下令	
七、一三	東安省東安出發	
七、一九	小倉着	

(108)

年月日	概	要
昭五八、一	門司港出発	
八、五	沖繩那覇港に上陸せり	
七、三	東安出発博多港に上陸し約二週間小倉に駐屯せり	
八、一	沖繩に向うべく門司港出帆す	
八、五	那覇港に上陸し嘉手綱に進駐す。以後石嶺久得に在りて周辺の防備及陣地構築に從事す	
一〇、一〇	敵機約八百機空襲し来たるも人員唯一名戦死せるのみにて大なる損害なし	
一〇、一五	沖繩初年矢一六〇名入隊す	
一、二、六	武部隊の転出に伴ふ島尻郡高嶺村字大里に転進以後附近の防衛及陣地構築に任ず	
二〇、三、三三	多数の敵機来襲。甲号戦備を全くし戦斗配備を完了す	
三、三、四	敵機動部隊進攻し艦砲射撃を開始す	
四、一	敵嘉手綱北谷正局より上陸を開始す	
四、三、七	連隊長以下首里市赤田町に転進す	
五、四	ヤニ次総攻撃に参加し敵に大なる損害を与えたるも我も亦人員の損失大なり	
五、三、元	首里嶽返高尻郡高嶺村字大里に転進す	
六、一〇	敵大里に殺到し来り。連隊長は新垣に転進す	
六、三、二	全員壮烈なる挺身討死。戦車に体当りを敢行す	

現王連隊長は壮烈なる戦死を遂げ、村枝以下大半戦死し生存者僅かに三十三名なり。

(109)

(10)

第二十四師団通信部隊略歴

年月日

概

要

昭五、七、六	前駐屯地 滿洲国東安省東安
七、一三	隷屬關係 五軍隷下ニ四師団
七、一五	部隊名 滿洲九七五部隊
七、二〇	動員下令
八、一	駐屯地出發
八、五	博多上陸
二〇、三、三三	門司出航
四、一	沖繩泉那覇港上陸
二〇、三、三三	敵機動部隊沖繩周辺に近迫、空海協同の攻事は苛烈を極め
二〇、三、三三	愈々中頭郡嘉平村北谷正局より上陸を開始す
二〇、三、三三	当時我方の正西は石部隊及山三四七四部隊の一部を以て戦線は確保せらるるも
二〇、三、三三	戦況は意の如くならず
二〇、三、三三	敵沖繩本島進攻より
二〇、三、三三	師団首里戦線に転進に至る迄与座師団司令部を基点とし軍及師団内各部隊間の
二〇、三、三三	通信連絡に任し敵の熾烈なる銃爆害に依り屢々切斷せられたるも將校以下の努
二〇、三、三三	力に依り能く之を確保するを得たり

終り (11)

(11)

四、二〇	師団戦斗司令所津嘉山進出と共に同所を次ぎ首里進出と共に同所を基点として
四、二〇	通信連絡に任す
五、二六	敵銃爆害各種砲害は益々熾烈を極め軍總攻事前後に於ては断線に次ぐ断線によ
五、二六	り各部隊との連絡困難を極む
六、二	島尻地区転進と共に
六、二	新坂 次いで
六、二	宇江城に転移す
六、二三	師団司令部及各部隊間の通信連絡は敵の攻害に依り遂に杜絶するに至り各部隊
六、二三	は各個の戦斗を実施するに至る

(112)

輯重カ二十四連隊部隊略歴

年月日	概	要
昭五七、六	動員下令	
七、一三	動員完結	
七、一六	滿洲回東安省東安出發	
七、二三	下関上陸	
八、五	沖繩本島那霸港到着	
八、八	中頭郡嘉名到着	
一三、一〇	高尾郡富盛地区に転進 同日より同地区の陣地構築並に防衛	
二〇、三、三三	沖繩本島一帯に対し敵機爆撃開始	
六、三三	甲子戦備下令 同日より戦斗配備完了 連隊長戦死	

カ二十四師団カ二野戦病院カ二部隊略歴

終リ(111)

(113)

年月日	概	要
昭五八、一、二	金沢輯重連隊に於て動員完結（カ九師団カ三野戦病院）	
九、一七	金沢出發	
九、二五	門司出帆	
一〇、二五	沖繩本島着同日部隊復員シカ二十四カニFLとして動員完結（カ九カ三FLが二十四カニFLと変る）	
	野戦病院長 小池勇助 火佐	
	カ一半部長 蜂谷早苗 大尉	
	（庶務主任）	
	沖繩本島尻郡	
	一半部は富見城 二半は小城に於て洞窟野戦病院を開設四月末より五月初旬に	
	及び 軍救救護班二班 一半部杉見士 左瀬見士を長とする）を分遣	
	又患者療養所（事實上は病院と同一業務）を十班分遣せり	
	（溝口中尉 斎藤順見士 中村見士 斎藤季見士 左瀬見士 野村見士を長とする）	
二〇、六、一	患者療養所と共に全FLを徴収し島尻南端糸満自然洞窟に後退し其処にて業務続	
	行せるも	
六、八	馬承攻事を受け師団との連絡絶ゆ 全員斬込を終る	